



平成 26 年 10 月 31 日

各 位

上場会社名 中部電力株式会社
代表者 代表取締役社長 水野 明久
(コード番号 9502)
問合せ先責任者
原子力本部原子力部
業務グループ長 豊田 哲也
(TEL 052-951-8211)

浜岡原子力発電所に係る安全性向上対策の工事内容の一部見直し

当社は、平成 26 年 2 月に浜岡原子力発電所 4 号機について、新規制基準への適合性確認審査のための申請を行い、これまでに計 11 回、原子力規制委員会による審査会合が開かれています。当社は、審査が先行する他社の発電所の審査内容等についても適宜把握し、現在進めている安全性向上対策に反映すべく検討を進めています。

これまでの検討結果を踏まえて、4 号機対策の工事の一部について工事内容を見直し(※)、このたび、実施することとしましたのでお知らせします。

今回の見直しにより、主に重大事故時の現場対応力向上等を目指した対策を強化します。

(※) 主な工事内容の見直し

緊急時対策所の機能強化	<ul style="list-style-type: none"> ・非常用電源設備・換気設備：火災影響を考慮した分散配置 ・空調機能：災害対策要員の作業環境向上のための強化 ・建屋：上記に伴う建屋面積の拡大
可搬設備の保管場所・アクセスルートの確保	<ul style="list-style-type: none"> ・可搬設備(電源・注水)の保管場所：火災影響の少ない場所に配置 ・可搬設備用燃料タンク：竜巻・火災の影響を受けない地下に増設 ・アクセスルート：緊急時のアクセス性向上のためのルート見直し
火災対策	<ul style="list-style-type: none"> ・消火装置：自動または遠隔操作可能な消火装置の導入 ・消火方式：火災の種類に応じたより適切な消火方式(泡消火、ガス充填等)の採用

これらの工事内容の見直しにより、今後、設計の見直し、敷地造成、建屋建設、機器の製造・据付等が必要となるため、4 号機は平成 27 年 9 月、3 号機は平成 28 年 9 月としていた安全性向上対策の完工時期については、さらに 1 年程度の工期を要する見込みであり、4 号機は平成 28 年 9 月頃、3 号機は平成 29 年 9 月頃となる見通しです。

今後、4 号機の審査の進展に伴い、工事内容の見直しや追加を行う可能性があります。審査状況や最新の知見を的確に把握し、先行して必要な措置を講じることで、早期の完工を目指して努力してまいります。

当社は、浜岡原子力発電所の安全性をより一層向上させる取り組みを着実に進めるとともに、その内容を、地元をはじめ社会の皆さまに丁寧にご説明し、ご理解を賜うよう取り組んでまいります。

別紙 安全性向上対策の工事内容の一部見直し(概要)

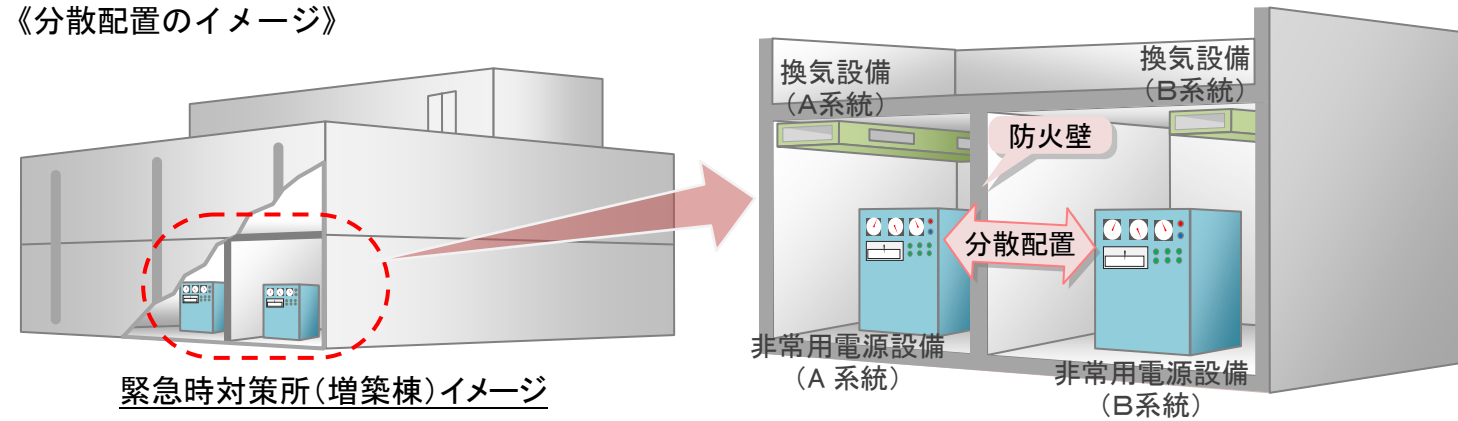
以 上

安全性向上対策の工事内容の一部見直し(概要)

緊急時対策所の機能強化

- ・ 重大事故時に緊急時対策所を確実に使用できるよう、新たに建設する増築棟について、非常用電源設備や換気設備の多重化を考慮していましたが、更に防火壁で仕切られた部屋に分散して配置することで、火災対策を強化します。
- ・ 空調機能について、耐震性を確保したうえで、災害対策要員の作業環境向上のための強化を行います。
- ・ 上記の見直しなどを行うことにより建屋面積が拡大します。
- ・ このため、今後、緊急時対策所（増築棟）の設計を見直し、建屋建設、機器の製造・据付を行います。

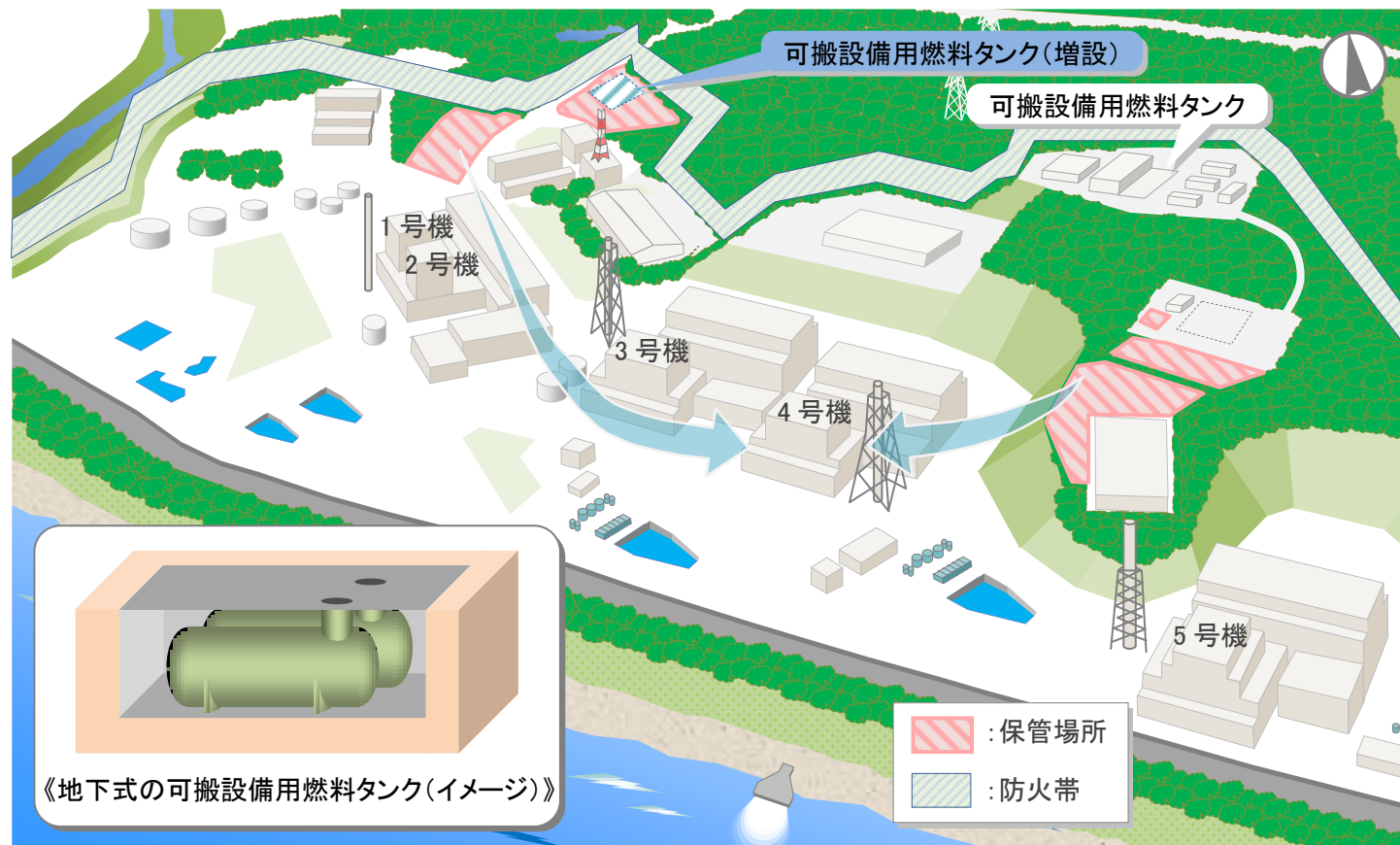
《分散配置のイメージ》



緊急時対策所(増築棟)イメージ

可搬設備の保管場所・アクセスルートの確保

- ・ 外部からの火災の影響を受けないよう、可搬設備（発電機車、ポンプ車等）の保管場所 2 箇所および保管場所から 4 号機までのアクセスルートを防火帯（※）の内側に配置します。
- ・ 重大事故時に可搬設備をより一層確実に使用できるよう、耐震性を確保したうえで、竜巻・火災の影響を受けない地下式の可搬設備用燃料タンク（1 週間分）を、津波による万一の敷地浸水時においても影響の少ない保管場所に増設します。（※）森林火災の影響を防ぐためのエリア



《地下式の可搬設備用燃料タンク(イメージ)》

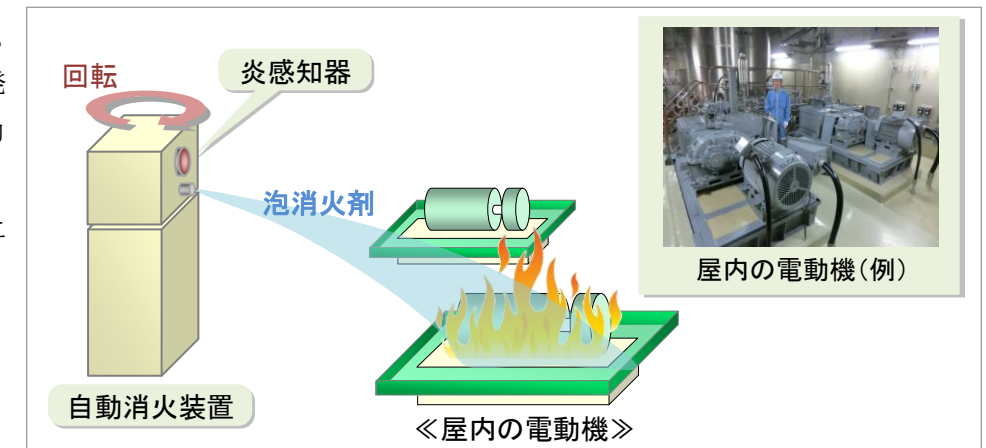
火災対策

- ・ 自衛消防隊が火災現場に出向かなくても消火装置で対応できる範囲を広げ、火災の種類に応じた消火装置を増設します。
- ・ 油を内部に含む電動機等の機器の火災については、炎までの距離を特定し自動または遠隔操作で消火する自動消火装置や放水銃を設置します。
- ・ 電源設備の火災については、電源盤内の火災を自動で消火する盤内消火装置を設置します。

《自動消火装置について》

屋内の電動機の近傍に設置します。炎感知器で火災を監視し、火災が発生すると炎までの距離を測定し自動で消火を行う装置です。消火には、冷却性・窒息性に優れた泡消火剤を使用します。

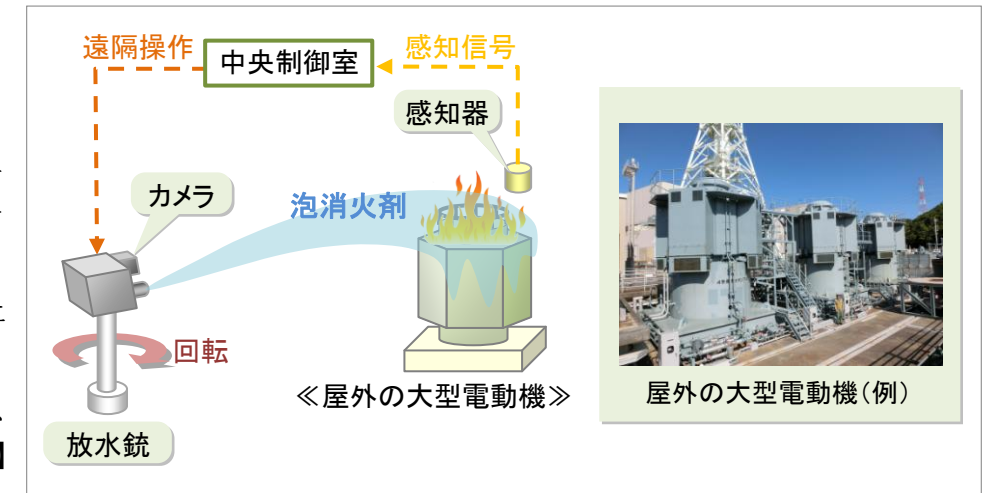
【設置箇所：約 50 箇所】



《放水銃について》

屋外の大型電動機等の近傍に設置します。感知器が動作すると中央制御室に信号が送られ、カメラの映像をモニターで監視しながら、遠隔で放水銃を操作します。消火には、冷却性・窒息性に優れた泡消火剤を使用します。

【設置箇所：循環水ポンプ電動機、再循環ポンプ電動機用変圧器】



《盤内消火装置について》

電源盤内に設置します。電源盤内の火災を自動的に感知して消火を行います。消火には、使用後も機器に影響を与えない消火ガスを使用します。

【設置箇所：約 500 箇所】

